

今週（2月13日から2月17日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、週半ばに積み期間が切り替わる日程であったが、レート水準は一貫して上昇する展開となった。

無担保コールO/N物の加重平均レートは、週初13日に▲0.035%となったものの、積み最終日に向けた調達ニーズの高まりを受け、14日は▲0.032%、最終日の15日には▲0.026%まで上昇した。16日以降は、基準比率の大幅な上昇(53.0%→61.0%)を受け、各業態の調達意欲は非常に強く、16日は▲0.010%、17日は週末要因から更に上昇する展開となった。

ターム物は、ショートターム物を中心に▲0.01~▲0.005%近辺での引き合いが散見された。レート水準は、O/N物の上昇を受けて、ターム物も上昇基調となっている。

日銀当座預金残高は、14日までは516兆円台半ばでの推移となったが、15日の年金定時払いを受け、その後は525兆円程度まで増加する展開となった。

また、14日には事前予定通り、貸付期間5年(2023年2月15日~2028年2月15日)の共通担保資金供給オペ(全店・金利入札方式)が10,000億円でオファーされた。結果は、応札額30,318億円、落札額10,004億円、按分レート0.100%、平均落札レート0.121%、按分比率19.0%となった。

●レボ市場

今週のGC T/N物の出会い水準は、概ね▲0.10~▲0.08%程度での推移となった。

SCは、ロールオーバーを中心に幅広い銘柄で取引が見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、週前半は動意に乏しく閑散な展開となったが、週後半になると1Y物の入札結果を受けてか、6M~1Yゾーンが軟調に推移した。

入札に関しては、16日に実施された1Y物は無難な結果となり、その後のセカンダリーマーケットでも横這い圏での推移となった。17日に実施された3M物では、テールが流れるやや弱めの結果となった事で、その後のセカンダリーマーケットでもやや軟調な展開となった。

短国買入オペは、14日に前回と同額の1,000億円でオファーされ、全取利回較差、平均利回較差ともに+0.006%と無難な結果になった。

●CP市場

今週のCP 発行市場は、五十日に当たる15日と20日発行があり、電気、化学、石油など複数の業態から大型発行が実施されたものの、全体の発行額は伸び悩む展開となった。

市場残高については、1月末以降、緩やかな減少が続いており、16日時点では27兆2,700億円程度となった。

発行レートは、3月末までに償還する日銀適格担保銘柄では、引き続き投資家の玉確保ニーズが根強く、概ね0%から小幅なプラス圏での決着が中心となった。一方、年度末越えの案件や残高が膨らんだ銘柄については、一部の投資家に慎重な姿勢が見られ、レート水準にばらつきが出ている。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
2/13（月）	27,427.32	0.500	131.70	△ 0.035	△ 0.091	5,164,900
2/14（火）	27,602.77	0.500	132.28	△ 0.032	△ 0.092	5,165,200
2/15（水）	27,501.86	0.500	132.73	△ 0.026	△ 0.092	5,249,200
2/16（木）	27,696.44	0.500	134.05	△ 0.010	△ 0.087	5,260,300
2/17（金）	27,513.13	0.500	134.30	△ 0.007	△ 0.083	5,244,400

来週（2月20日から2月24日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
2/20 (月)					New York祝日 (Presidents' Day)
2/21 (火)	月例経済報告 (内閣府)	20Y 12,000億円 2/22発行	交付税借入 12,000億円 3/6借入		1月の米中古住宅販売
2/22 (水)	群馬県金融経済懇談会において田村日銀審議委員講演 1月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50)				
2/23 (木)	天皇誕生日				10-12月期の米GDP改定値 1月のユーロ圏消費者物価指数改定値
2/24 (金)	1月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	TB3M 63,000億円 2/27発行	流動性供給 5,000億円 2/27発行		1月の米個人所得・消費支出 1月の米新築一戸建て販売件数

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
2/20 (月)	▲ 500	▲ 17,700	▲ 18,200	国債買入 国債補完 CP買入 社債買入	53,900 ▲ 100 ▲ 300	400	53,900	35,700	TB3M発行▲63,000 償還59,500 TB1Y発行▲35000 償還21,500 エネルギー対策借入▲6,400 期日6,500
2/21 (火)	▲ 500	4,000	3,500	社債買入		1,000	1,000	4,500	
2/22 (水)	▲ 1,000	2,000	1,000				0	1,000	20Y発行▲12,000
2/23 (木)	天皇誕生日								
2/24 (金)	▲ 1,500	3,000	1,500				0	1,500	
週間合計	▲ 3,500	▲ 8,700	▲ 12,200	—	53,500	1,400	54,900	42,700	

2/20は日銀予想、2/21以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、引き続き各業態から積極的な調達が見込まれ、無担保コールO/N物は▲0.01%前後での推移が予想される。債券レポGC O/N物は、積み期序盤にあたり、引き続き資金ニーズの動向に左右される展開が見込まれる。短国市場は、24日に3M物の入札実施が予定されている。また、21日に実施が予想される短国買入オペは、1,000～5,000億円程度が見込まれる。CP市場は、22日にCP等買入オペが4,000億円が予定されている。また、週後半には月末発行が控えており、発行動向が注目される。

主要なイベントは、国内では、24日に1月の全国消費者物価指数、海外では、23日に10-12月期の米GDP改定値、1月のユーロ圏消費者物価指数改定値、24日に1月の米個人所得・消費支出(PCE)、1月の米新築一戸建て販売件数などの発表が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入